

# 進路だより

第3号



令和2年12月21日

青森県立八戸東高等学校 進路指導部

## 令和2年度大学出前講義

10月6日(火)、2学年全員を対象に、大学出前講義を実施しました。各学部学科の研究内容を講義していただくことによって、学問分野、領域を知り、今後の進路選択につなげていくこと、自己と社会とのつながりを意識することが目的です。今年度は、生徒の進路志望と教員の研究テーマをもとに、下表のとおり9の大学の先生方をお招きしました。生徒は、希望する学問領域から文理融合\*でつながりを持つ2つの講義を選択し、講義を受けました。感想を一部紹介します。

\*従来の「文系・理系」という区分にとられない文理融合の考え方は、学生に柔軟な発想力と豊かな専門知識を身に付けさせることができ、現実社会の様々な課題の解決につながっていくと期待されています。

公立はこだて未来大学	システム情報科学部 複雑知能学科	大澤 英一 教授
北海道教育大学函館校	教育学部 国際地域学科	飯山 雅史 教授
青森公立大学	経営経済学部 地域みらい学科	木暮 祐一 准教授
八戸学院大学	健康医療学部 看護学科	川野 恵智子教授
岩手大学	理工学部 システム創成工学科	岩井 守生 助教
秋田大学大学院	国際資源学研究科	安達 毅 教授
秋田県立大学	生物資源科学部 生物環境科学科	石川 祐一 准教授
宮城教育大学	教育学部 初等教育教員養成課程	佐藤 哲也 教授
福島大学	人文社会学群 行政政策学類	西田 奈保子准教授

どんなに特殊な環境でも生きられる植物が持つ性質が、別の環境に影響を及ぼしたり、今まで不可能だと思っていたことを可能にしたり、土壌の状態を改善してくれたりするなど、たくさんの可能性があることが分かった。そのようなことにも目を向けて生活していきたいと思いました。

(石川祐一准教授 「環境管理修復」より)

その人がその人らしく生きることを医療と生活の面から支えるという、重要でやりがいのある仕事だと思うので、さらに看護師になりたいという気持ちが強まりました。

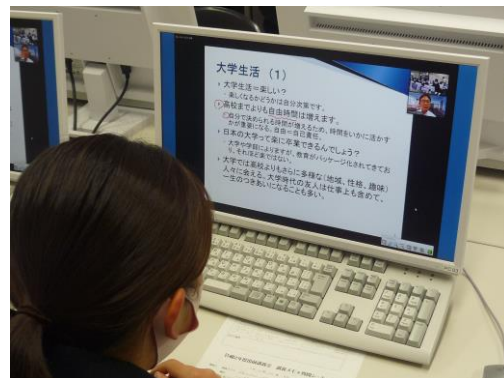
(川野恵智子教授 「地域包括ケアシステムにおける専門職連携、看護連携」より)

大統領として一番重い決断が「戦争を始めるか始めないか」なのには当然納得いくのだが、重い決断に至る前に、その問題を平和的に解決して欲しいです。そういうことが起きないように、三権分立をしっかりと踏まえて、大統領選挙で一刻も早くこの状況をよくして欲しいと思います。

(飯山雅史教授 「アメリカ大統領選挙を100倍楽しむ国際政治学」より)

上手に親から愛情を受け取れないと精神病やうつ病になることもあると知り、乳児期にお世話してくれた両親に感謝したいと思いました。私自身、高校教員という職業に興味がありましたが、幼児教育とは対象になる人が違うだけで、心構えは同じだと思いました。将来教員になったら、生徒に寄り添える先生になりたいと思いました。  
(佐藤哲也教授 「幼児教育とは何か」より)

今年、コロナの影響と大学側の希望で、1つの講義はオンラインで行いました。右の写真はその様子です。実施してみて「大学のリモート講義の雰囲気を知ることができた」という感想も見られました。オンラインであれば、遠方の大学にも依頼できるというメリットがあります。また、大学出前講義に限らず、大学側との都合が合えば、随時開講することも可能だと思います。今回の経験を機に、オンラインによる説明会や講義の可能性も模索していきたいと思っています。



## 大学入試情報

総合型・学校推薦型選抜入試の結果が概ね出揃いました。今年から、センター試験が大学入学共通テストに変わることはもちろん知っているとは思いますが、推薦入試についてはどうでしょうか？名称が変わったことは知っていても、具体的にどう変わったかを知らない人が多いと思います。八東では、入試がどのように変更されるのか情報を収集し、共有するための取組を昨年度から行ってきましたが、具体的な選抜方法や評価の仕方は不明な点が多い状況でした（大学側が漏らすはずがないので当然といえば当然ですが）。実際に受験してきた3年生が提出した報告書や、3年生への聞き取り調査で分かってきたことを、随時紹介していきます。

ポイント① 「**主体性**」評価が取り入れられた初めての選抜

### 【面接編】

主体性を評価するために、これまでとどう変わったのでしょうか。面接でされた質問をいくつか紹介します。

- ・総合的な学習の時間（課題研究）で何を考えた？
- ・得意科目にはどのように取り組んだ？
- ・論文ノートをまとめて（論文を読んで）何を感じた？
- ・ボランティア活動で何を学んだ？
- ・スキルアッププログラムの目的は？
- ・世界遺産検定を受けようと思ったのはなぜ？

「何をしたか」ではなく、  
**「なぜ、どのように学んだか」**  
**「どう変わったのか」「どう思ったか」**  
自分の変容ぶりを明確に話せる生徒が  
「主体性」を評価されるということ

また、次の質問からは、「**自分と異なる他者をどう受け入れてきたか**」を評価しようという意図が読み取れます。

- ・馬が合わない人にはどう対応する？→回答→それでもだめならどうする？
- ・音楽の楽しさを伝えたい→音楽を楽しくないと思う人にはどうする？
- ・部活動のリーダーとして部をまとめた→部員はあなたの言葉を聞き入れてくれた？

つまり、実体験のある生徒が「多様性・協働性」を評価されているということです。

↓・・・対応のためにどうすればいいのでしょうか。

**学習や活動のたびに振り返り、記録を残しておく**ことです。

振り返りシートを活用し、1年次から記録しておくことで、自分の変容や成長に気づくことができます。また、**相手に伝えることを意識**して記録しておきましょう。